

# 景観づくりの手引き 基本指針・色彩基準



横須賀の自然、歴史等の資源を生かした景観を育むこと。



横須賀の特徴である海や緑豊かな丘陵地等への良好な眺望を保全すること。



地域にふさわしい魅力的な街並みを育むこと。

## 個性豊かな美しい景観づくり

景観計画では、市・市民・事業者等の景観づくりに係る全ての関係者が、景観がもつ市民の共有財産としての公共性を認識し、個性豊かな美しい景観を形成するために積極的に取り組むべき事項を理念として示しています。また、景観づくりに関する指針や基準を定め、建築行為等の良好な景観を形成する上で重要な役割を果たす行為に対し、地域特性や周辺環境と調和したデザインとすることを求めています。

本書では、景観計画に定めた指針や基準のうち、「基本指針」及び「色彩基準」の内容を事例写真等により具体的に解説しています。

基本指針		P2～P17
対象事項	基本指針の内容	
1. 土地の形質の変更	(1) 既存の地形、樹林、水辺等を保全し、活用する。	2
2. 建築物等の配置及び規模	(1) 隣接地と相互に協力し、潤いとゆとりのある空間を創出する。	3
	(2) 周辺から突出する大規模な建築物等は、分棟し、又は配置を工夫し圧迫感を低減させる。	3
	(3) 周辺の水辺、丘陵地等への眺望に配慮した配置及び規模とする。	4
	(4) 眺望の良い小高い丘の上の公園等の周囲では、その眺望を阻害しないよう周囲を低層にし、又は配置を工夫して眺望を確保する。	5
	(5) 街並みとしての連続性を考慮し、周辺の建築物等を含めた集合体として配置及び規模を定める。	6
3. 建築物等の形態及び意匠	(1) 全体が統一感のある意匠とする。	7
	(2) 建築物等の正面性を意識する。	7
	(3) 周辺と調和した屋根形態とする。	8
	(4) 既存の特徴的で親しまれている地域の個性を大切にす。	8
	(5) 周辺と調和した壁面線とする。	9
	(6) 大規模な壁面の圧迫感を軽減させるため、壁面を分節し、きめ細かで親しみやすいデザインにする。	9
	(7) それぞれの街の潤い、安らぎ、にぎわい等を活かし、街並みに反映させる。	10
	(8) 工作物は、周辺に与える突出感、違和感及び威圧感を軽減させるものとする。	10
	(9) 歴史ある建築物等を保全し、活用する。	11
4. 建築物等の外観の色彩及び素材	(1) 外観の基調色は、建築物等に多く使われている色相を基本に、高彩度色の使用を避け、周辺の街並みと調和する色とする。	12
	(2) 外観の素材は、周辺と調和する素材とする。	12
5. 敷地内の外構及び緑化	(1) 既存の樹木等の緑をできるだけ活用し、やむを得ず伐採する場合は代替措置をとる。	13
	(2) 敷地内空地は緑化を行い、緑豊かな空間を創出する。	13
	(3) 道路等の公共空間に面した空間は、街並みにふさわしい演出をする。	14
	(4) 駐車場は、無機質な路面や構造物が目立たないような配置にし、又は植栽等により修景を行う。	15
6. 広告物	(1) 広告物や案内板の位置、規模、意匠及び表示は、周辺の街並みに配慮し、調和のとれたものとする。	16
7. 屋外照明	(1) 地域の特性に応じて光の影響を考慮し、効果的な照明を行う。	16
8. 屋外設備機器	(1) 付属施設(給水タンク、ゴミ置場、冷暖房設備の室外機、受変電設備等)は、道路等の公共空間から目立たないような配置にし、又は植栽等により修景を行う。	17
9. 維持管理	(1) 建築物、工作物、敷地内の樹木等の適切な維持管理を行う。	17

色彩基準		P18～P23
対象事項	色彩の基準	
建築物等の外観の色彩	<p>1 建築物等の外観の基調色(各立面及び屋根面の水平投影面(以下「各面」という。)の最大の面積を占める色彩)及び補助色(外観の色彩のうち基調色以外の色彩)として使用する色彩は、次に掲げる色彩とする。</p> <p>(1) 日本産業規格のZ8721に定める色相、明度及び彩度の三属性(以下「マンセル値」という。)による色相がR及びY Rの場合は、マンセル値による彩度6以下の色彩</p> <p>(2) マンセル値による色相がYの場合は、マンセル値による彩度4以下の色彩</p> <p>(3) マンセル値による色相がG Y、G、B G、B、P B、P、R Pの場合は、マンセル値による彩度2以下の色彩</p> <p>(4) マンセル値によるNの色相</p> <p>2 前項の規定は、次に掲げる場合は適用しない。</p> <p>(1) 建築物等の各面の見付面積の5%以内の部分</p> <p>(2) 自然石等、表面に着色を施していない素材を使用する部分</p> <p>3 第1項の規定にかかわらず、横須賀市景観審議会の意見を聴き、市長が特に景観的に優れている、又は特別な理由があると認めた場合は、この限りではない。</p>	

## 用語解説

P24

## 1. 土地の形質の変更

### (1) 既存の地形、樹林、水辺等を保全し、活用する。

**解説** 横須賀市の地形は、東京湾、金田湾、相模湾という性格の異なる3つの海に面した海岸線を持ち、また、地形の大部分を丘陵地が占めているという地形特性をもっています。

このため谷戸や坂道、トンネルの多さ、そして、多くの場所で見ることができる丘陵の緑や海の景色等は、横須賀という街の記憶として人々に受け継がれてきた「横須賀らしさ」の大切な要素です。

開発や造成などの土地の形質変更の際には、この「横須賀らしさ」の基本である地形骨格や既存の樹林、水辺等の自然環境を大切に、活かす必要があります。



擁壁と緑の法面を組み合わせ、丘の上らしい景観づくりを工夫しています。  
(横須賀市)



造成後の法面は人工的な材料を避け、できるだけ自然な緑の斜面地としましょう。  
(石岡市)



横須賀の特徴である斜面地の緑



## 2. 建築物等の配置及び規模

### (1) 隣接地と相互に協力し、潤いとゆとりのある空間を創出する。

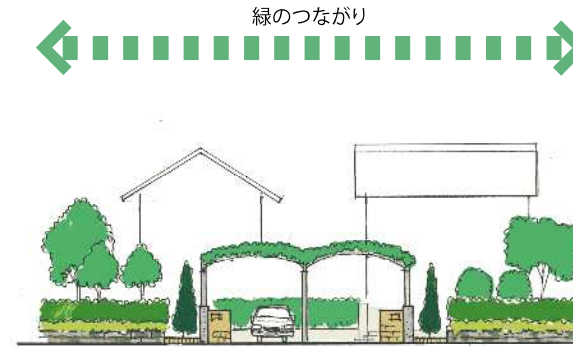
**解説** 建築物の配置は、自分の敷地だけで完結させて考えるのではなく、隣地との植栽スペースを連続させたり、オープンスペースを一体的に設ける等、周辺との連続性や一体性に配慮することで、より魅力的な空間が創出されます。



空地をまとめて設けることで魅力ある空地や緑のデザインを工夫しやすくなります。  
(日野市)



植栽をできるだけ連続させ、通り沿いで一部同系種の樹木も用いて連続感や緑の一体感を創出しています。  
(横須賀市)



- ・ガレージや門扉の位置・デザインの協調
- ・緑をつなげる工夫



数戸単位の協調により、まとまった緑や空地の創出

### (2) 周辺から突出する大規模な建築物等は、分棟し、又は配置を工夫し圧迫感を低減させる。

**解説** 戸建住宅地等の低層住宅地の中に突然大規模な建物が出現すれば、圧迫感や、空間に占める大きさの極端な違いによる違和感を感じ、街並みとしての魅力を低減させてしまいます。

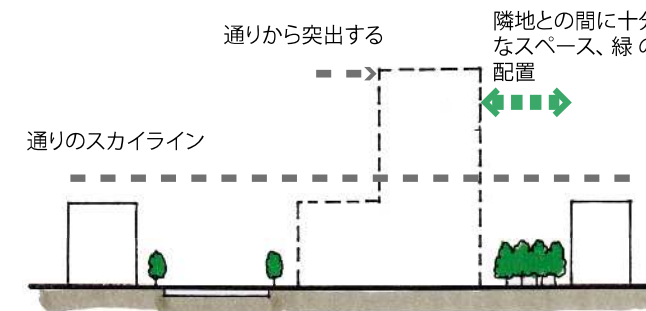
周辺となじむような規模とすることは重要であり、やむを得ず大きな施設を計画する場合でも、街並みとしてのスカイラインの連続性に配慮し、高層部の壁面を後退させたり、また分棟化や、配置を雁行させる等の工夫により、圧迫感を低減させる必要があります。



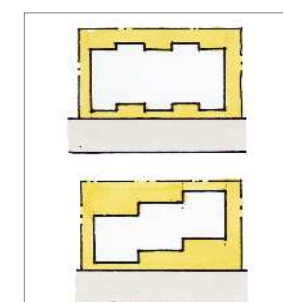
雁行配置を行い、大壁面の印象を軽減する工夫をしています。  
(横須賀市)



前面の低層部から後方の高層部へ段階的に壁面を後退させています。  
(港区)



周辺との違和感を軽減し、なめらかなスカイラインとする



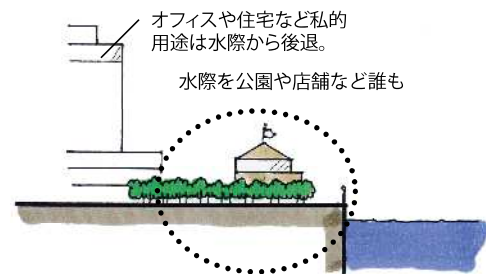
雁行配置など、大壁面の印象をやわらげる工夫

## 2. 建築物等の配置及び規模

### (3) 周辺の水辺、丘陵地等への眺望に配慮した配置及び規模とする。

**解説** 本市の景観の大きな特徴として「海」や背後の「丘陵の緑」が市内の様々な場所から見えることがあげられます。水辺や丘陵の緑とまちのつながりは、まちに潤いや安らぎを与えてくれます。散策路など通路や建物を通して見通し線ができる空間を創出する等、水辺や丘陵の緑とのつながりを大切に建物の配置やデザインが必要です。

また、水辺や丘陵周辺の建物は、背後の海や川、丘陵の緑等の景観を独占しないような配置や高さとするような配慮も必要です。



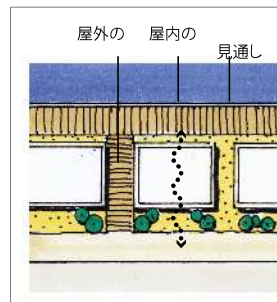
水辺の空間を独占しない配置計画、水辺の景観を損ねないボリューム配置などを工夫する



水辺に向けて開けた空間をつくることで、自由に水辺に近づくことができます。  
(横浜市)



商業施設に水辺への通り抜け通路を設けています。  
(横須賀市)



見通しや通り抜け空間の配置

### (4) 眺望の良い小高い丘の上の公園等の周囲では、その眺望を阻害しないよう周囲を低層にし、又は配置を工夫して眺望を確保する。特に、海への眺望を確保する。

**解説** 丘の上の公園等は、周辺の建物が低層であれば、海等を望む開放的で良好な眺望を得ることができます。これらの眺望を確保できるよう、周辺の建物等は、高さや配置に配慮すると共に、高い場所からの見え方も意識したデザインとすることが必要です。

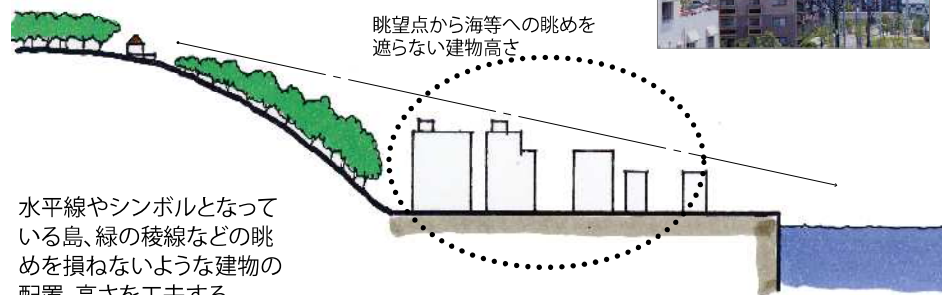
また、海側等から見ることでできる丘陵の稜線等への眺望にも配慮し、建物等の高さや配置を工夫することも大切です。



連続する丘陵の稜線を分断しないよう、建物の高さが配慮されています。  
(横須賀市)



建物の高さを背後の山の稜線に配慮しているため、自然になじんだ景観がつけられています。  
(西宮市)



水平線やシンボルとなっている島、緑の稜線などの眺めを損ねないような建物の配置、高さを工夫する。

### ●横須賀市の眺望景観形成エリア

眺望の良い小高い丘の上の公園等の例として、「横須賀市都市景観整備基本計画」で示されている本市の眺望景観形成エリア内にある公園等からの眺望を一部紹介します。



1. 鷹取山公園
2. 塚山公園
3. 猿島
4. 中央公園
5. 観音崎公園
6. 大楠山
7. 衣笠山公園
8. 武山
9. くりはま花の国

◇写真を掲載して眺望の様子を一部紹介しています。本ページ下部を

1. 鷹取山公園  
ハイキングコースとして市民に親しまれています。展望台からは鷹取山の奇勝、周辺に広がる丘陵の緑、夏島や長浦港、東京湾を望むことができます。



2. 塚山公園  
三浦按針の墓所、サクラの名所、ハイキングコースとして市民に親しまれている県立公園です。展望台から横須賀港や周辺の丘陵の緑が望めます。



4. 中央公園  
横須賀の中心市街地至近に位置する丘の上の公園で、中心市街地の街並みや、猿島などが望めます。また、夜景スポットとしても親しまれ、花火大会等の視点場ともなっています。



7. 衣笠山公園  
サクラ日本100選に選ばれる桜の名所です。展望台から東京湾や猿島、周辺の丘陵の緑の他、横浜方向にランドマークタワー等が望めます。



9. くりはま花の国  
花の名所として親しまれています。久里浜港内や港を囲む周辺の丘陵の緑、東京湾越しの房総半島が望めます。

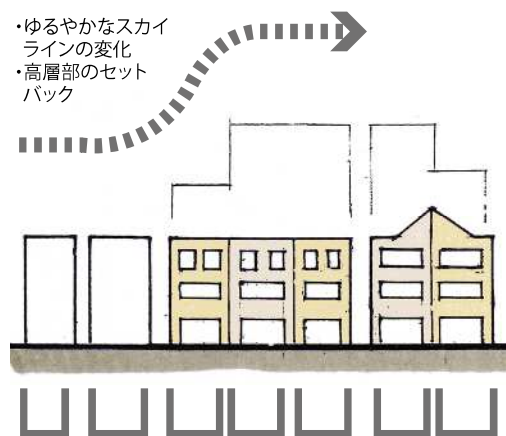


## 2. 建築物等の配置及び規模

### (5) 街並みとしての連続性を考慮し、周辺の建築物等を含めた集合体として配置及び規模を定める。

**解説** 街並みは一つの建物だけでなく建物等が連続性を持ち集合体となることにより、街並みとしてのイメージが強化されます。周辺との連続性に配慮した、配置、大きさとする必要があります。

通り沿いの建物高さや、間口の長さなどを協調し、これらに差異を生じる場合も、壁面デザインの分節化や建物高さを段階的に変化させるなどにより、連続性をもたせる工夫が必要です。



間口のスケールの協調

スカイラインや間口の長さなどを協調することで街並みの連続性を確保する。



建物の集合体が連続性のあるスカイラインを形成しています。  
(横浜市)



通りなどで高さを揃えることで街並みの連続性が生まれます。  
(千葉市)



周囲に比べ、規模が大きくなった場合でも、低層部分を通りと調和させて、街並みの連続性に配慮をしています。  
(台東区)

## 3. 建築物等の形態及び意匠

### (1) 全体が統一感のある意匠とする。

**解説** 部分のデザインが優れていても、それらをまとめる全体の統一感が不足した建築物等は、不安定な印象を与えがちです。建物の組み合わせ、建物自身の形状、屋外設備、倉庫、外構の組み合わせなど各部位の関係を一体的に捉えた、全体デザインの配慮が必要です。



幾何学的な形状でまとめ、芝の緩斜面とつながる白い外壁、低いスカイラインなどが全体デザインの美しさを感じさせています。  
(印西市)



外階段を建物デザインのアクセントとして用い、一体的な色調で全体をまとめています。  
(横須賀市)



屋外設備も建物デザインに組み込み、すっきりと一体的に仕上げています。  
(横浜市)



カーテンウォール・鋼鉄フレームの対比的な壁面素材を使用しながら、屋上・壁面の緑によって全体をまとめています。  
(神戸市)

### (2) 建築物等の正面性を意識する。

**解説** 建物の顔となる正面部分は、第一印象を決定づける重要な部分であり、正面らしい建物デザインとして十分配慮する必要があります。また、入口や玄関はわかりやすい配置とし、門や植栽の演出などにより特徴を出すことが考えられます。



壁面デザインによって特徴ある入り口をつくり、正面性を際立たせています。  
(港区)



入り口部分を特徴づけ、玄関、スロープ、植栽など曲線を取り入れた柔らかなデザインが建物のアクセントとなっています。  
(品川区)



1階出入り口部分を吹き抜けとし、素材や色彩に変化をつけるなど、デザインに変化をつけています。  
(千葉市)



住宅街区の正面に集会所を配置し、門と一体的にデザインして印象的な正面を創り出しています。  
(横須賀市)

### 3. 建築物等の形態及び意匠

#### (3) 周辺と調和した屋根形態とする。

**解説** 屋根の形態は、街並みとしての連続性に配慮したスカイライン（空に対する輪郭線）とする必要があります。特に陸屋根の高層建築物は、塔屋など機能上突出する部分がいびつな印象を与えないよう、パラペット（屋上からの壁面の立ち上がり）やフレーム（枠組みとなる構造物など）等を用いてスカイラインを整える配慮が求められます。また、やむを得ず低層と高層が隣り合う場合や、歴史的な街並みに隣接して新しい建築物を建てる場合などは、既存のスカイラインの連続性に配慮したデザインの工夫が求められます。



通りで、屋根形状のデザインを工夫しています。（渋川市）



瓦素材を用いたり、低層部の庇により、昔ながらの街並みの連続性に配慮しています。（長野市）



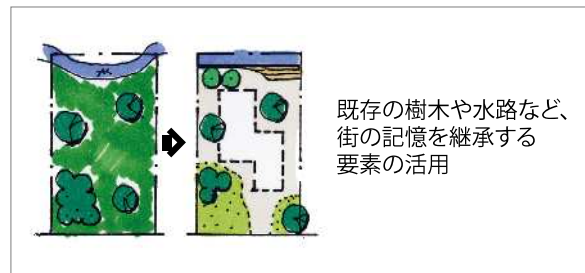
通りに沿って屋根勾配の方向を揃えています。（柏市）



塔屋の部分にフレームを使って、屋根形状に工夫がされています。（横須賀市）

#### (4) 既存の特徴的で親しまれている地域の個性を大切にします。

**解説** 地域ごとに特徴的な自然景観や街並み景観が存在しており、市民に永く親しまれている地域イメージを大切に、地域住民に支持されるよう地域のコンテキスト（文脈）を読み込んで周辺環境と調和した建物形態や素材、色彩とすることが必要です。例えば、周辺に歴史的な建物や庭園があったり、自然資源がある場合、それらと同等の素材や同系の色彩を、デザインに積極的に取り入れていく方法があります。また、坂道など、地形的な特徴を活かす場合は、地形がより美しく見えるよう外構や植栽のデザイン等を工夫することが考えられます。



地域固有の資源である鉄道敷きやレンガ倉庫を保全し、それらの眺めを確保するためゲート状の建築デザインとしています。（横浜市）



地域の特徴である赤レンガをイメージしたレンガタイルや、洋風近代建築らしい意匠を工夫しています。（横浜市）



斜面地・坂・階段の多い横須賀では住宅の外構や階段などの要素を美しくデザインすることでその特徴が生きてきます。（横須賀市）

#### (5) 周辺と調和した壁面線とする。

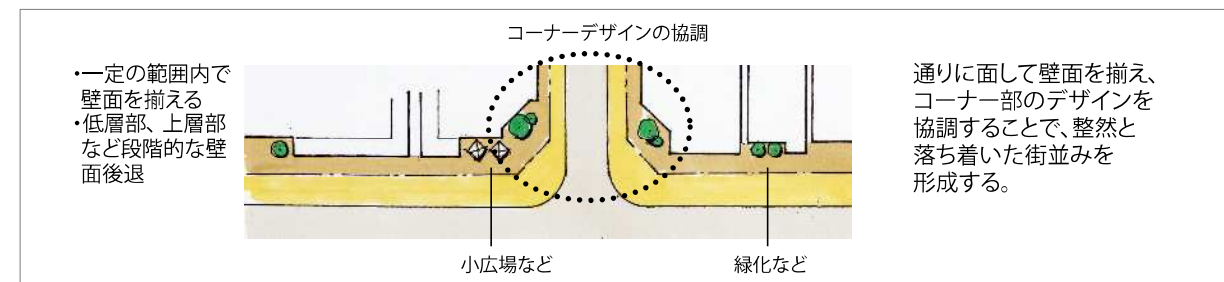
**解説** 街並みの景観をつくる上で、壁面線の位置を揃えたり効果的に凸凹させたり、また軒高さを揃えたりすることは、街並み景観の秩序と変化を生む重要な要素です。住宅地や工業地では、ゆとりや潤いをもたらすために通りから壁面線を後退し、緑地や歩行者空間などとして確保することが効果的です。また、商業地では、歩行者空間にゆとりがない場合は、壁面線の後退によって歩行者空間を生み出すことが効果的ですが、スペースが広すぎることによって寂しい雰囲気を与えてしまう場合もあります。例えば低層部と高層部で壁面線の位置を段階的に設定したり、必要な歩行者空間の他は角地などに小広場を配置したり、店先の演出を図るためのスペースとするなど、にぎわいの創出に配慮した壁面線の工夫が必要です。



角地の壁面デザインを協調し、街並みの秩序をつくっています。（千葉市）



1階部分のセットバックにより歩行者空間を豊かにして、憩いの場や店先を演出するスペース創出しています。（横浜市）



#### (6) 大規模な壁面の圧迫感を軽減させるため、壁面を分節し、きめ細かで親しみやすいデザインにする。

**解説** 建物の大きさは、単なる高さや幅だけでなく、その関係性も大切です。また、大規模な壁面を持つ建物は、異質な印象を与えるため、人間尺度（ヒューマンスケール）に配慮が必要です。周辺から見て単調な大壁面とならないよう、分節化したり、開口部のデザインによって陰影のはっきりした表情をつくるなどによって壁面に変化をつける工夫や、特に目にとまりやすい低層部では、圧迫感を和らげるため、石やタイルなどの素材の活用や、植栽による修景など、細部への気配りの効いたきめ細やかなデザインが必要です。



外階段などをアクセントとして大壁面を主に垂直方向に分節化しています。（バルセロナ）



全体に陰影のある壁面デザインとし、また低層部と上層部で色彩や形状に変化をつけ、主に水平方向に分節化しています。（横須賀市）



工場の壁面を素材の変化によって分節化し、大規模感が軽減されています。（白井市）



樹木で建物を隠すように緑を配置しても、周囲に与える圧迫感が軽減します。（中央区）

### 3. 建築物等の形態及び意匠

#### (7)それぞれの街の潤い、安らぎ、にぎわい等を活かし、街並みに反映させる。

**解説** 建物デザインを演出する際、住宅地のやすらぎ、商業地のにぎわい、工業地の潤い、また文化学術、歴史といった地域の性格から、その場所に求められる雰囲気を理解し、また建物全体の統一感を崩さないなかで、それぞれの地域にふさわしい演出を工夫する必要があります。

例えば住宅地では外階段や外廊下、窓枠やバルコニー、テラス、付属設備などきめ細やかにデザインし、やさしさややすらぎを演出する方法があります。

また、商業地では、街並みを乱さないよう上部のデザインはできるだけ落ち着いたものとし、低層部の壁面のオブジェや開口部のショーウィンドウ、アクセントカラーの使用などによってにぎわいを演出する方法があります。

工業地では働く場としての潤いに加え、市民に親しまれる景観づくりのため、落ち着いた雰囲気の外壁としながら、曲線によって変化をつけたり素材の形態を活かしたカラーリング、企業イメージを高める壁面のロゴデザインなどによって演出する方法があります。



雁行の凹凸による緑、外階段やバルコニーなどきめ細やかなデザインがやさしさを感じさせます。  
(杉並区)



テントなどで店舗らしさを演出しつつ、建物としては住宅街に調和した建物の規模やデザインとしています。  
(台東区)



上層部は落ち着いた重厚なデザイン、低層部は軽快で開放的なデザインとして店舗のにぎわいのデザインをひきたっています。  
(千代田区)



倉庫の壁面や屋根をフレームなどで修景を施し、親しみやすいデザインとしています。  
(柏市)

#### (8)工作物は、周辺に与える突出感、違和感及び威圧感を軽減させるものとする。

**解説** 給水塔、ガスガバナ（ガス圧調整器）、電波塔などの工作物は、ともすればそれぞれの機能面だけが優先され、周辺の街並みとは無関係に設置されてしまうことがあります。周辺景観を損なわないよう、落ち着いたデザインや色彩とし、緑で修景したりして、突出感、違和感、威圧感を軽減し、目立ちにくくする工夫が必要です。

また、建物と一体的に建設する場合は、できるだけ全体と調和のとれたデザインとすることが必要です。工作物本体のデザインを、建物デザインと調和させることが難しい場合は、建物の中に組み込んだり、緑やルーバー等によって露出を避ける工夫が必要です。



工作物を緑化することで、人工的な感じを軽減し、落ち着いた感じのある景観となります。  
(パリ市)



消火器を露出せず、本体の木造建築物に合わせた囲いをデザインしています。  
(樫原市)



自転車置き場を半透明のパネルで覆い、緑と組み合わせ、建物の足下をすっきりとしたデザインでまとめています。  
(渋谷区)



大規模な工作物は特に周辺からの見え方に配慮した色彩等のデザインの工夫が求められます。  
(江東区)

#### (9)歴史ある建築物等を保全し、活用する。

**解説** 地域に存在する歴史的な建築物の多くは、都市の記憶として地域の景観を特徴づけています。これら景観資源は次世代にも引き継ぎ、保全を行うとともに、単なる記念碑のような物として保全するだけでなく、住み続けたり活用し続けることで「生きている施設」として維持することが必要です。

また、全部を保存できない場合であっても、門柱や塔の一部など部分保存したり、使用されていた素材の一部を活用するなど、または「ベイスクエア横須賀」のように「旧EMクラブ」の塔のイメージを外観意匠に継承するデザインとするといった、元の建物の印象を保存する工夫が必要です。



歴史的建築物を残していくことで、印象的な街の記憶を継承していくことができます。  
(横須賀市)



保存・活用できない場合でも改築前の建築物（旧EMクラブ）のイメージを外観に活かして、街の記憶を残す配慮をしています。  
(横須賀市)



歴史的建築物を保存・活用して、コミュニティ施設として活用しています。  
(横須賀市)



改築計画に元の歴史的建築物の部材を活かすことで昔ながらの景観を残していく配慮がされています。  
(横浜市)

#### コラム：統一感のデザインについて

##### ●建物同士や、要素のデザインを調和させる

基本的な手法としては和風、洋風等のデザインの方角性や、使用する素材・色彩につながりを持たせ、全体をまとめていくことが効果的です。また、歴史的な資源に現代的なデザインの建物を組み合わせるなど、対比的調和のデザインとすることも可能です。但し、その場合も対比的な要素をつなぐ工夫が必要であり、対比的調和のデザインは非常に難しい方法であるため、十分な検討と調整が必要です。

##### ●プロポーションを整える

建物全体、その柱割りなどの高さや幅の関係（プロポーション）によって、その建物の全体的印象は左右され、全体の統一感にも影響を与えます。昔から、人々は建築物等に黄金比（縦横比が1：1.1618のとき最も調和のとれた美しい図形ができるとされる寸法体系）など美しさや調和を生み出す法則を求め、全体から各部位に至る一体の設計に用いてきました。現代にあっても、自身の建築物等を美しく調和のとれたプロポーションとするような設計の工夫が求められています。

## 4. 建築物等の外観の色彩及び素材

(1) 外観の基調色は、建築物等に多く使われている色相を基本に、高彩度色の使用を避け、周辺の街並みと調和する色とする。

**解説** 景観は海、山といった自然の要素と建築物・工作物といった人工の要素で構成されています。これらの要素の様々な色彩の組み合わせが雑然としていけば周辺の街並みとの調和を損ねてしまいます。秩序ある色彩景観を形成していくには、建築物等の外観の色彩が周辺の自然環境や街並みと調和していくことが必要です。特に建築物の外観の基調色は、周辺で見慣れた色味（色相）を使用し、鮮やかさ（彩度）や明るさ（明度）が周辺環境と違和感のない色彩とするよう、工夫する必要があります。※建築物等の外観の色彩については、別途「色彩基準」が定められています。（本書18～23ページをお読みください。）



街で見慣れないような違和感のある色使いを避けます。



各戸が周囲の住宅と色彩を調和させています。（横須賀市）



塗り替えの際に、連続する建物で、共通ルールに基づく色彩計画とし、街並みとしてより調和のとれた色彩にしました。（横須賀市）



カラフルな色使いの部分を極力減らし、近接する住宅地と協調した、落ち着いた色彩でまとめた商業施設です。（岸和田市）

(2) 外観の素材は、周辺と調和する素材とする。

**解説** 色彩だけでなく素材の選定についても、周辺の景観との関係に配慮することが必要です。特に、景観形成上重要な資源に隣接する場合は、質感の違いによる違和感を感じさせない等、その資源の景観を損ねないよう色彩や素材を選択する必要があります。また、建築物等の低層部や外構等、至近距離で目にとまりやすい部位に、木材系素材や、艶を抑えた土系タイル、レンガなど一般的な塗装では再現できない落ち着いた色あいや質感を醸し出す素材を積極的に使用することが効果的です。



土系の素材は、その質感により落ち着いた雰囲気を街並みに与えます。（神戸市）



長年、風雨にさらされた自然素材は、その経年変化も大きな魅力になります。（台東区）



改築の際に、元の建築物で使われていた材料を利用することで景観づくりに配慮しています。（港区）



低層部に使用されているレンガの質感が建物デザインに変化をつけ、歩行者空間にうるおいを与えています。（横須賀市）

## 5. 敷地内の外構及び緑化

(1) 既存の樹木等の緑をできるだけ活用し、やむを得ず伐採する場合は代替措置をとる。

**解説** 長い時間をかけて成長した緑は、生態系とともに安定した環境を作っており、またその景観も周辺住民に親しまれていることも少なくありません。できるだけ既存の緑を活かし、やむを得ず保存できない場合は、移植を行ったり、伐採する場合でもその代わりとなる緑の確保が必要です。その場合、できる限り同じ面積分の緑地を代替したり、同じ樹種や周辺の自然植生に調和した樹種を植え直して、時間をかけて同様な環境を取り戻す配慮が必要です。



開発時に周辺の緑地を残しつつ、主要な通り沿いや街区内の緑化により、緑豊かな空間の再生につとめています。（横須賀市）



地域の防風林としてよく用いられているクロマツなどを庭木に連続的に植えた住宅地計画としています。（横須賀市）



斜面地を緑地とし、四季折々の植栽によって周辺の自然環境との調和を図っています。（八王子市）



既存樹林を敷地内に並木状に残している住宅地です。（所沢市）

(2) 敷地内空地は緑化を行い、緑豊かな空間を創出する。

**解説** 敷地内の空地を緑化することにより、街並みに潤いや安らぎが生まれます。特に外周部分は緑化を重視して通りなどから見える緑の面積を増やすよう配慮することが必要です。商業地等で、建物を敷地境界ぎりぎりに建てる場合等、緑の空間を確保することは困難な場合でもショーウィンドウの一部に植栽を施したり、鉢植えや壁面緑化など立体的な緑の演出により、賑わいと潤いのある街並み景観が創出されます。また、陸屋根の屋上などにおいても、屋上緑化の可能性を検討するなど、積極的に緑豊かな空間を創出するための工夫が必要です。



敷地内通路に沿って、季節の低木や草花で演出されており、安らぎを感じさせます。（中央区）



屋内空間をシースルーとし、通りに緑を見せる工夫をしています。（港区）



上部からの眺めに配慮し、駐輪場の屋根を緑化しています。（横須賀市）



石積み等の緑化を含め、潤いを感じられる緑豊かな空間を創出しています。（横須賀市）



(3) 道路等の公共空間に面した空間は、街並みにふさわしい演出をする。

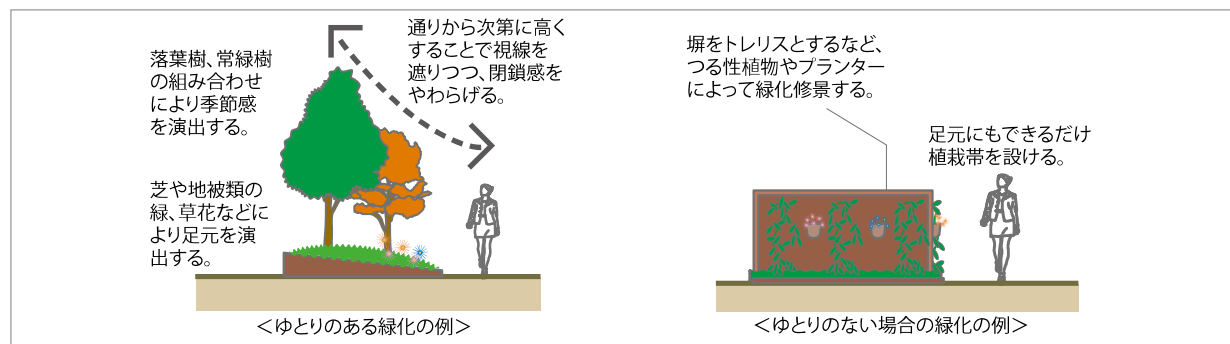
**解説** 通りに面した空間はデザインと使い方によって建物の雰囲気だけでなく、街並みの雰囲気も変わってきます。地域の特性、施設の性格と空間の規模を考慮しながら通りの表情を豊かにするデザインとしましょう。

また、擁壁や塀、柵などを設置する場合は、周辺の景観に配慮した素材の選択と配置が必要です。特に人工的な素材を用いる場合は、できるだけ自然素材を組み合わせると違和感のない景観を形成することが必要です。

例えば住宅地では、門扉、塀、カーポートの位置など通り全体や隣地と協調した外構デザインを工夫することが効果的です。

また、商業地では店先の演出に利用したり、歩行者空間の創出、さらにゆとりがあればベンチやパラソル、屋台など歩行者が利用できるストリートファニチャーの設置が効果的です。

柵や塀を設置する場合には、その外側に緑化部分を配置するなど通りをゆつたりとみせる工夫が効果的です。



オープンな外構ですが、通りからの段階的な樹木の高さとし、視線を遮りつつ通りにゆとりを感じさせます。  
(横須賀市)



柵の外側に効果的に植栽し、通りから緑が映えるようにしています。  
(所沢市)



壁面後退部分に設けた歩行者空間と四季感のある緑が住宅地の街並みをひきたてています。  
(横須賀市)



壁面後退部分と歩道の舗装を強調し、曲線を用いたやわらかな植栽デザインで空間に変化をつけています。  
(所沢市)



1階の壁面後退部分を全てオープンテラスとし、テントやプランターで街並みを演出しています。  
(港区)



壁面後退をオープンテラスとし、パラソルなどがオフィス街の街並みに潤いを与えています。  
(横浜市)



工場の外構をオープンなつらえとし、芝生に季節の花や緑がゆつたりと配置されています。  
(佐久市)



工場前の通りも特徴ある柵と植栽で、親しみのある空間になっています。  
(横須賀市)

(4) 駐車場は、無機質な路面や構造物が目立たないような配置にし、又は植栽等により修景を行う。

**解説** 無機質になりがちな駐車スペースや立体駐車場の壁面等は、できるだけ見えないような配置としたり、自然素材を取り入れて修景し、潤いを演出する等、周辺景観となじむような工夫が必要です。



駐車スペースの区画に植栽帯を設け、地被類と中木で修景しています。  
(横須賀市)



立体駐車場のまわりに豊かな植栽帯を設け、花や高木などで修景しています。  
(長野市)



駐車スペースに緑化ブロックを設けるとともに、区画に中木を配置し、目に見える緑を増やす工夫をしています。  
(相模原市)



立体駐車場のデザインを工夫するとともにツタで壁面を緑化しています。  
(長崎市)

## 6. 広告物

(1) 広告物や案内板の位置、規模、意匠及び表示は、周辺の街並みに配慮し、調和のとれたものとする。

**解説** 広告物や案内板等は、デザインや位置、大きさや数によっては街並みを損ねることもあります。広告物等を設置する場合、周辺との調和に配慮した位置、大きさ、デザインとすることが重要となります。例えば看板はできるだけ1カ所に集約し、スカイラインを乱す屋上広告物は設置しない配慮や、建物と一体的な形態や色彩とした看板を計画するなどの工夫が必要です。また、できるだけ自家用広告物以外の設置を避けることも必要です。



切り文字による小さくシンプルなロゴサインのみを用い、淡いグレー調の建築外観のアクセントとなっています。  
(横須賀市)



テナントの看板の位置を揃え、統一デザインのフレームとすることで調和が図られています。  
(横浜市)

## 7. 屋外照明

(1) 地域の特性に応じて光の影響を考慮し、効果的な照明を行う。

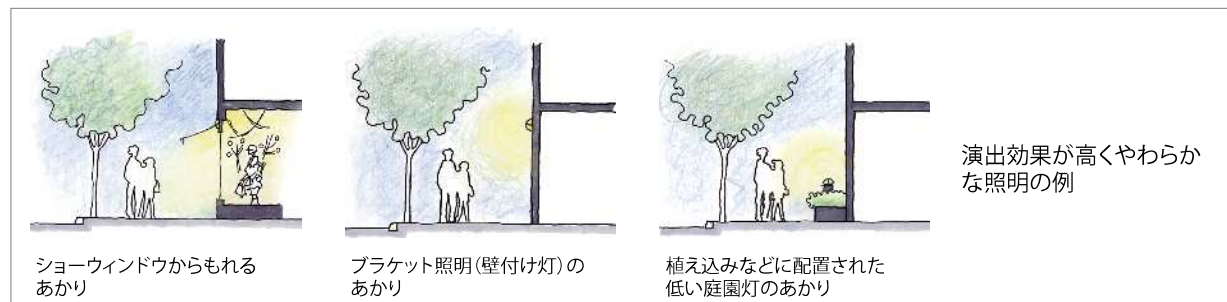
**解説** 住宅地は、夜間、安心して眠れるように防犯に必要な照明装置を除いて、不要な光ができるだけ入らないような工夫が必要です。また、商業地は夜間照明の演出を心掛け、周辺に住宅地がある場合などは、住宅地に光が漏れないような配慮が必要です。光源の色温度にも留意して、これまで多く用いられてきた水銀灯などの真昼の白色ではなく、夕方の光に近い暖かみのある色温度の光源を活用検討するなど、街並みの演出効果への配慮も必要です。



ブラケット照明を効果的に用い、歩行者の安全を確保しています。また、ほどよい明るさが暖かく居住者を迎えます。  
(横須賀市)



暖かみのある照明が、心地よい空間を演出します。  
(中央区)



演出効果が高くやわらかな照明の例

ショーウィンドウからもれるあかり

ブラケット照明(壁付け灯)のあかり

植え込みなどに配置された低い庭園灯のあかり

## 8. 屋外設備機器

(1) 付属施設(給水タンク、ゴミ置場、冷暖房設備の室外機、受変電設備等)は、道路等の公共空間から目立たないような配置にし、又は植栽等により修景を行う。

**解説** 給水タンク、ゴミ置場、冷暖房の室外機や受変電設備等は、人目に触れにくい配置としたり、建築デザインの中に組み込んだり、又は植栽による修景を施すなどにより、街並みに違和感を与えないよう配慮する必要があります。



屋上設備を屋根に組み入れた計画で、見え方をすっきりさせています。  
(横須賀市)



屋上設備を覆うパンチングメタルを、建物と一体のデザインとして見せています。  
(文京区)



色や飾りアーチなど控えめな工夫によって、ゴミ置場を囲うフェンスがお洒落な印象となっています。  
(福岡市)



機械室を建物に組み込み、さらに殺風景とならないよう、その前を樂しげに修景しています。  
(中央区)

## 9. 維持管理

(1) 建築物、工作物、敷地内の樹木等の適切な維持管理を行う。

**解説** 個々の建物の外観をきれいに保ち、その外構や緑化部分も手入れをして維持管理することが必要です。さらに、コミュニティ全体で、良好な街並み保全のために努力することも必要となります。維持管理面を考慮すると、外壁材等は素材によって、時間の経過とともに汚れが付きやすいものや色落ちしやすいもの、塩害などの影響で変質してしまうものなどがあり、地域の特性に応じた材料の選定が必要です。一般に、タイル等の場合は汚れは付くものの、退色はほとんどありませんが、吹きつけ塗装の場合は、時間の経過とともに退色するものであり、また塗料の成分の違いや色の違いによって退色性が異なりますので、最初の色だけでなく、色の変化により長い時間現れる色を想定した素材の選定が必要です。更に、適切な時期に定期的な維持管理を行うことも、秩序ある街並み景観の維持のために必要なことです。



通りの緑地帯が沿道住民のボランティアによって手入れされ、潤いある景観が保たれています。  
(横須賀市)



店先の緑の手入れ等、日常の維持管理も風景の一部です。  
(港区)

(1) 建築物等の外観(建築物等の外部に面している全ての部分)の色彩基準を次表に定めるとおりとする。

使用する色相	彩度の基準
R(赤)・YR(黄赤)の場合	マンセル値による彩度6以下
Y(黄)の場合	マンセル値による彩度4以下
GY(黄緑)・G(緑)・BG(青緑) B(青)・PB(青紫)・P(紫) RP(赤紫)の場合	マンセル値による彩度2以下
N(無彩)の場合	マンセル値による彩度基準なし

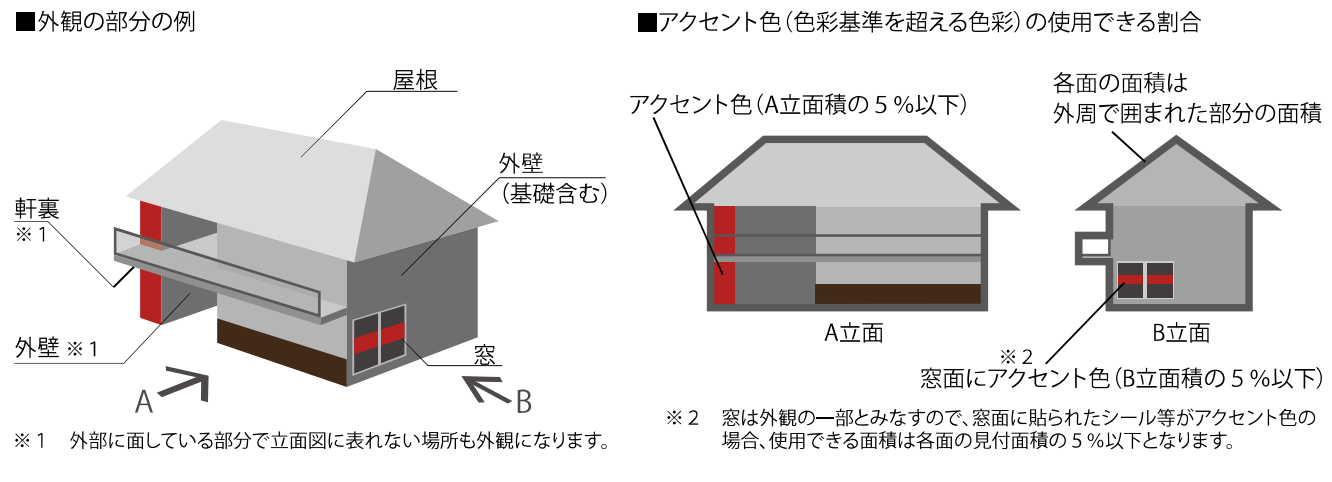
**解説** 基調色は、外観のイメージを左右するような外壁や屋根など、各立面の最も大きな面積の色彩をいいます。街並みや自然環境との調和を図る上で最も重要な色彩となります。また、基調色を補完する色彩として補助色があります。例えば、腰壁や下層階の外壁、屋外階段等の部位で、基調色と類似した色相やトーンで建物の色彩分節をする際に効果的に用います。色彩基準は、建築物等の外観の基調色や補助色として使用した場合に、景観が大きく混乱するような色彩を避けるため、彩度による基準を定めています。またR(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)といった建物の色彩として身近に見慣れた色相に比較して、寒色系の色相の使用には慎重な検討が必要であり、より低彩度の基準としています。また、基準の色彩であっても、その使用する規模や周辺の景観等の状況によって、周辺景観との調和をはかる必要があります。

(2) 次に掲げる場合は適用しない。

- 運用除外**
- 建築物等の各面の見付面積の5%以内の部分
  - 自然石等、表面に着色を施していない素材を使用する部分
  - その他、横須賀市景観審議会の意見を聴き、市長が特に景観的に優れている、又は特別な理由があると認めた場合

**解説** 建物のポイントとしてその印象を高めるために、一部に色彩基準による彩度をこえる色彩をアクセント色とし、各立面ごとに5パーセントまでと考えています。着色を施していない自然石や木材や銅などの金属板、ガラスなど、落ち着いた質感を持つ素材そのものを使用する場合は色彩基準を適用しません。また、景観審議会の意見を聴きながら色彩の調整がなされた計画で景観上の支障がないと市長が認めた場合は、適用を除外します。

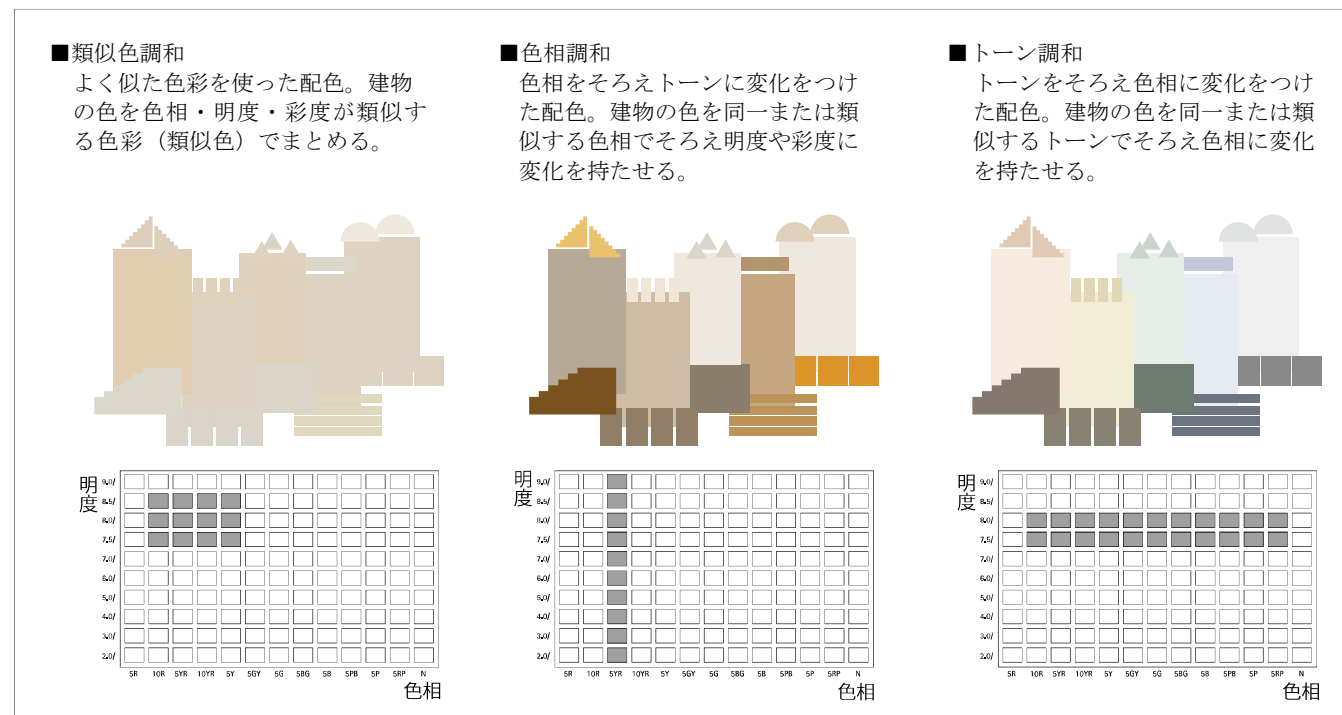
色彩基準の解説



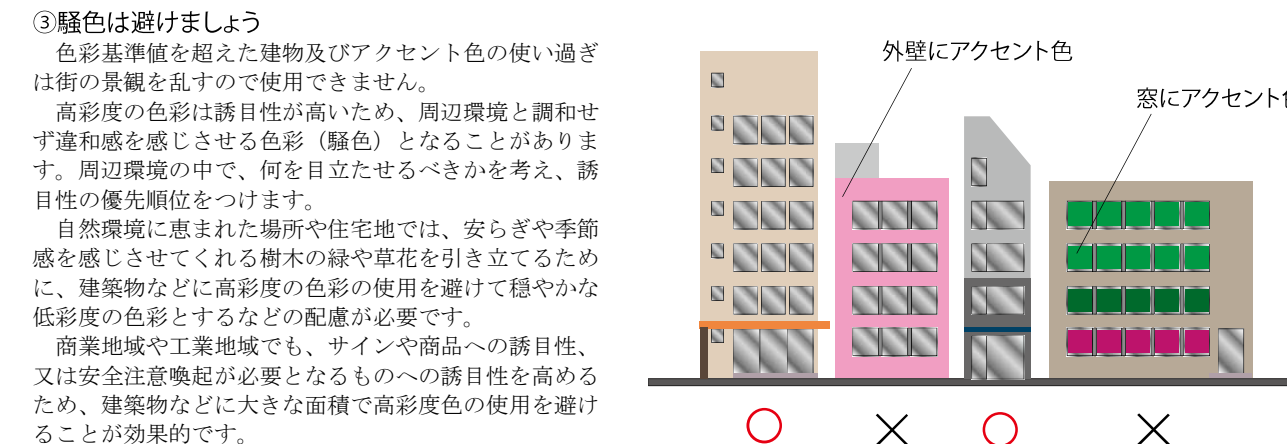
周辺環境との調和のさせ方

建物や柵などの色彩を選択するときには、周辺環境との調和に配慮することが大切です。色彩計画を立てるときは次の事項を参考にしてください。

- ①周辺の色彩の特徴をつかむ  
周辺環境の色彩を調べて、使われている色彩の特徴を把握することが大切です。特徴をつかんで、周辺と違和感のない色彩とするにはどのような色彩が良いか考えてみましょう。たとえば、一般的な建築物や工作物の基調色は彩度の低い色彩が基本となります。
- ②調和する色彩を組み合わせる  
調和する色彩の組み合わせには次のようなものがあります。



※トーン  
色彩の3属性のうち、明度と彩度を組み合わせたものをトーンと呼びます。明るさや鮮やかさが似ている色彩は、色相が異なっても強弱や軽重、濃淡などの印象がほぼ共通してきます。



カラーチャート

※カラーチャートは印刷による色再現のため、実際のマンセル値とは若干異なります。

19-80C

●

日本塗料工業会  
色見本番号

10YR 8.0/1.5

●

マンセル値

○マンセル表色系のしくみ  
マンセル表色系では色相、明度、彩度の色の三属性を尺度化したものによって、全ての色彩を表すことができます。

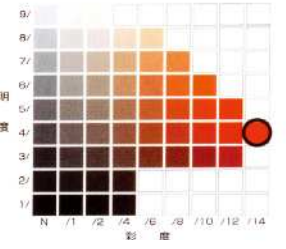
○マンセル記号の表し方  
色相、明度、彩度の順に3つの属性の尺度を並べたものがマンセル記号で、次のように表します。

5 R 4 / 1 4  
色相 明度 彩度

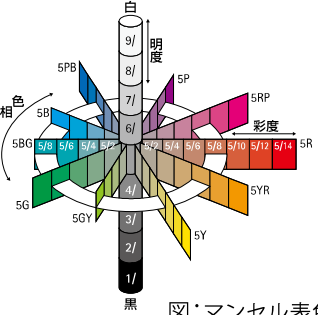
■色相とは  
色味の違いを表しています。色相は赤R・黄Y・緑G・青B・紫P・黄赤YR・黄緑GY・青緑BG・青紫PB・赤紫RPの10色相の頭文字と、その変化を表す0から10までの数字を組み合わせて用います。また、色味をもたない無彩色はN（ニュートラル）で表します。

■明度とは  
色彩の明るさの度合いを表します。理想の黒を明度0とし、理想の白を明度10としています。

■彩度とは  
鮮やかさの度合いを表します。無彩色を0とし、鮮やかさが増すにつれて度数が増しますが、色相によって彩度の上限は異なります。

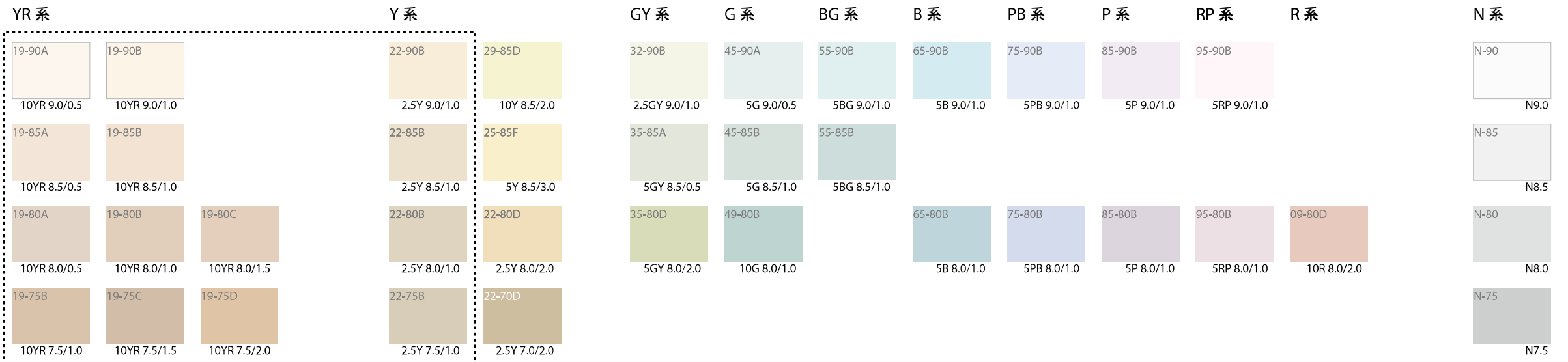


図：マンセル色票



図：マンセル表色系のしくみ

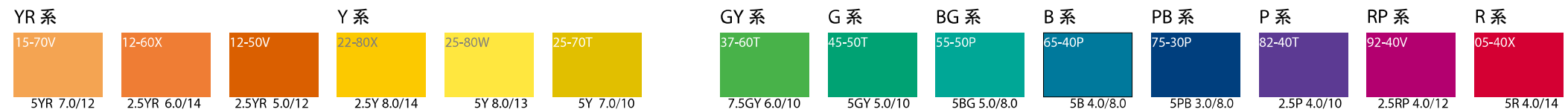
●色彩基準に示す代表的な色彩



※ 枠内は、横須賀市の建築物等の基調色として良く見かけられる色彩を例示しています。



●建築物等の外観の基調色として、避けた方がよい色彩



(作成協力：(株)カラープランニングセンター)

色彩景観に配慮した街並みづくりの事例

YRP地区

YRP地区は、世界的な情報通新技術の研究開発を目的に産・学・官の研究施設の拠点として研究開発施設が集結しています。研究施設の基本的な色彩は低彩度・高明度色とし、生活関連施設はYR系の色彩として地区の色彩が構成されつつあります。



海辺ニュータウン地区

海辺ニュータウン地区は、住宅・業務・商業と、街区の特性を生かしながら地区全体の統一感を作り出すよう色彩ガイドラインが定められています。住宅街区ではアースカラー（土の色や樹木の幹を基調とした色）が多く使われています。



汐入駅周辺地区

汐入駅周辺地区の建物は、「ペイスクエアよこすか」が使用する高明度の無彩色を基調とし、街並みを形成しつつあります。また、商業施設などではYR系の色彩で賑やかさの演出も行なわれています。



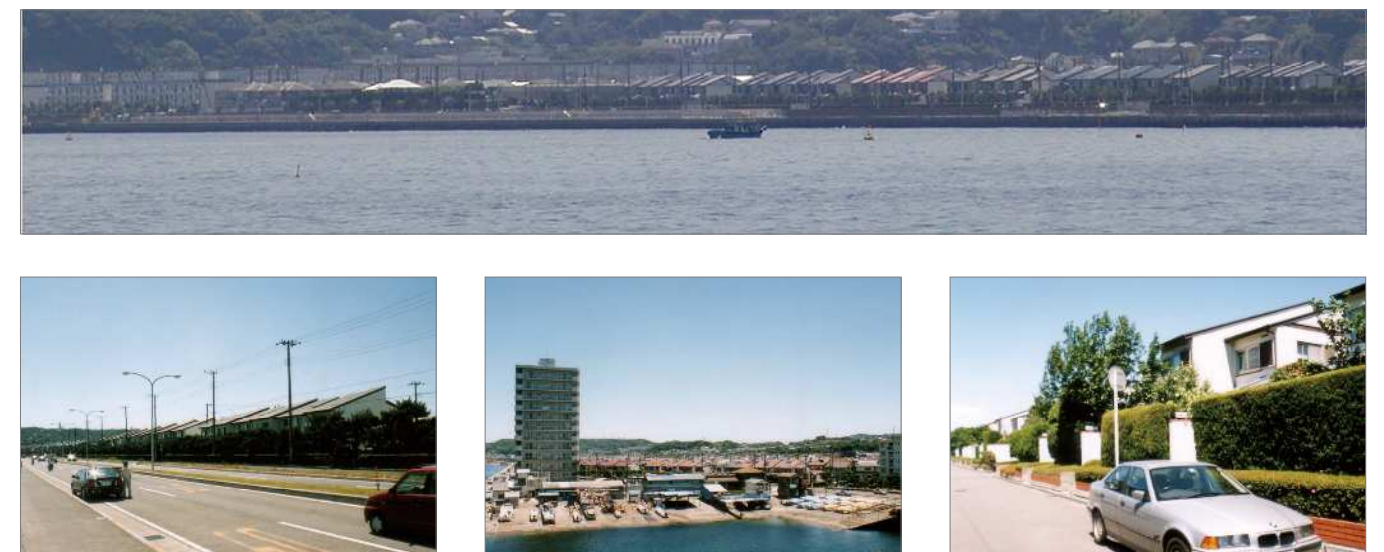
小川町マンション群

よこすか海岸通りに複数の集合住宅が建ち並ぶこの地区では地区独自の色彩指針が定められています。この色彩指針に基づき塗り替えが実施され、暖色系の周辺環境に調和する色彩で街並みが形成されつつあります。



マボリシーハイツ地区

マボリシーハイツ地区は、宅地をささえる大谷石やレンガ造のフラワーベルトと穏やかな色彩の住宅で、品格ある住宅地という特性を形成しています。住宅地としての落ち着いた街並みを維持するために、地区独自の色彩指針を定めています。



用語		用語	
色温度 (いろおんど) (16)	光の色味を表す単位で、K（ケルビン）で表す。物体の温度が高くなるにつれて発する光の色は、赤、オレンジ、黄、白、青白へと変化し、白い光をだす水銀ランプや白色蛍光灯などは色温度が高く、赤い光をだす高圧ナトリウム灯や白熱灯は色温度が低い。例えば、低色温度による照明は安らぎや落ち着きのある空間演出、高色温度は活動的で活気のある空間演出などに用いられる。	騒色(そうしよく) (19)	周辺環境と調和せず、違和感を感じさせている高彩度等の色彩。周りから目立たせることだけを考慮して色彩を用いたり、周りの色彩を考慮に入れずに色彩を用いた結果、騒色となる場合が多く、「騒色公害」という言葉もある。
オープンスペース (3)	公園・広場・河川・農地など、建物によって覆われていない土地、あるいは敷地内の空地の総称。	地被類(ちひるい) (15)	土地表面や工作物の表面を、緑化修景するために、地面を覆うよう用いる植物を総称し、グラウンドカバープランツとも呼ばれる。芝を除いたものを総称する場合もある。
オブジェ (10)	オブジェという言葉はフランス語で「もの」「対象」を意味し、芸術とは一見何の関係もない、日常の物体・工業製品などを組み合わせて創作された立体芸術作品を指す。今日では、抽象的な形状の立体デザインなども一般的にオブジェと呼ばれることが多い。	庭園灯 (ていえんとう)	庭園の足下や植え込みを照らす為に使用される、1m程度の背丈の低い照明器具。園路や遊歩道に沿って、また植え込み等の中に連続的に配置することが多い。
カーテンウォール (7)	カーテンのように軽く、建物の壁としての役割を持つ構造体。日本では1960年代以降に多く使われるようになり、近年ではデザイン的な理由からフレームが見えなくなるような技術まで進化してきた。	トレリス (14)	庭などに設けられる格子で、ツタを絡ませるなど、緑を配する壁として用いられる。ラチスと同義語。
シースルー (13)	透けて見えること。街並み景観では、店舗などの低層部で、開放感や軽快なイメージを演出したり、美しい内装や人の営み、緑などを通りからも感じられるようにするなどの効果を狙って用いられる。	パンチングメタル (17)	金属板を加工して、丸穴、角穴などを開けたもの。軽快感に加え、光や空気、視線の透過性がある。
修景(しゅうけい) (2,10,15,17)	建築物の外観や外構、道路、公園等の景観を整えること。例えば景観をより高質な素材で魅力的に見せたり、阻害する要因を目立たなくしたり、緑等で隠す（緑化修景）といった手法。	ヒューマンスケール (9)	建築や外部空間などで、人間が活動するのにふさわしく、親近感の感じられる空間のスケール。
スカイライン (3,6,8)	空と建築物や地形との境界線。都市建築群のシルエットの形態がなす線。街並みや山並みなどの景観を印象づける重要な要素。	ブラケット照明 (16)	壁にとりつける照明。店先や通りを照らしたり、建物の夜間演出等に用い、壁面や柱に連続的に取り付けることが多い。
ストリート ファニチャー (14)	道路や広場などのオープンスペースを構成する様々な要素のことであり、街具とも呼ばれる。街灯、ベンチ、案内サインなどがある。サインを除いたものを総称する場合もある。	マンセル表色系 (18,20)	アメリカの画家・美術教育家のA. H. マンセル（1858～1918）が考案し、1905年に発表したマンセル表色系に、その後アメリカ光学会が改良を加えたものが現在のマンセル表色系となっている。全ての色彩を尺度化し、色相、明度、彩度の三属性で表すことができる。日本では「三属性による色の表示方法」として、この表色系を日本工業規格(JISZ8721)に採用している。
セットバック (6,9)	まちづくりでは壁面を後退し、オープンスペースや、空間の広がりを出創すること。建物全体のセットバックの他、低層部分のみのセットバックや、逆に上層部のみのセットバック等、街並みの実状に合わせた手法が用いられる。	緑化ブロック (15)	穴のあいたコンクリートブロックのこと。ブロックの穴に土と植物の種を入れて、擁壁、舗装面、護岸等に緑をつくる。
		ルーバー (10)	風や光を通したい箇所や、軽量の壁、見た目に軽やかな壁としたい箇所に用いる、小幅板を隙間を持たせて組み合わせた壁状の構造物。
		陸屋根(ろくやね) (8)	コンクリート造の建物やモダンな洋風住宅に多く採用されている平坦な屋根。陸(ろく、りく)は平坦なこと。